県女第一期生より、皆実高校生に至る八十二年の歴史に連なる者。また今後、この同じ流れに連なる者、手をつなぎ足音高く歩もう。足音高く声を揃えて元気に歩もう。我等は、皆実有朋会員である。歩もう、歩もう力強く！

皆實有朋

発行所
広島市南区出汐町
広島皆実高等学校内
社団法人
皆実有朋会
TEL254－1290
印刷所
三栄印刷株式会社
東雲1丁目☎2841988

ごあいさつ

校長　西本省三

かって、新任教員として十四年間勤務いたしました本校に、丁度二十年ぶりに帰ってまいりました。

私にとって皆実高校は、ふるさとであり、母校といった感じで、同窓生の皆さまと同じくらいに懐しい、好きな学校ですから、今度こそと、決意を新たに頑張っておりますのでよろしくお願いいたします。

今さら私が申すまでもなく、長い歴史と優れた伝統に輝く皆実有朋会、今や二万名を超える会員をもち、中川理事長さまをはじめ役員の方々、会員皆さまの御尽力・御協力によって、年年充実し隆盛の一途にありますことは、学校といたしましてまことに頼もしく、衷心よりおよろこび申し上げます。

また、これまで、母校の教育のために物心両面にわたって多大の御支援を賜わっていることに対し、改めて厚く御礼を申し上げます。

とくに、先般の創立八十周年を記念して、教育振興基金を設立され、その果実をもって後輩の特色ある教育活動を、御援助・御激励くださることは、まことに有難いことで、その母校愛の御芳志に対し、深く敬意を表し感謝申し上げる次第であります。

本年度完成の校舎（3号館）

現在、皆実高校は、普通科二十九学級、衛生看護科三学級、同専攻科二学級の千五百五名という生徒数で、県内最大規模の高校となり、校舎等もお蔭をもちまして年々整備されて、昔日の様相を一変してまいりました。と同時に、先輩の皆さま方には、母校の教育や生徒に対する御要望・御期待の多いことも、十分に承知しております。

ことに私は、この八月中は、恒例の皆実有朋会の第三十回総会をはじめ、皆実四期の卒業三十周年大会、十六期の二十周年大会、あるいは六期の三十周年準備会、七期の有志会、十一・十二・十三期合同有志会等に御招待されて、同窓生の皆さまの母校に寄せられる温かい、そして厳しい御心情を、まさに肌に触れて痛感いたしました。

幸いに、先輩が培い遺された優れた歴史と伝統は継承しておりますので、皆さまの御期待に応えるよう努力を続けてまいります。

どうか今後とも、よろしく御愛顧を賜わりますようお願いいたします。

最後に、皆実有朋会のますますの御発展と会員の皆さまの御多幸を祈念いたします。

お願いと近況

教頭　木山良亮

今年の総会では、研究会が重なって、最後まで残れないで失礼しました。とくに当番期の有朋の皆さんの暖かい母校愛と、若い皆実の新しい企画の運営とに、感激いたしました。皆実有朋会はますます発展していくと思いました。

今年当番の皆実十八期生たちは、私が直接教室で縁を結んだ最初の人々です。今後に続く皆さんとともにますます縁が深まっていくことを楽しみにしています。

創立六十周年記念に寄贈いただいたプールは、同窓会の御理解をいただいて、今夏撤去いたしました。九月の水泳大会、一月の寒中水泳も思い出のものとなりました。来年度は、このプール跡に各界の御支援によって、ぜひとも千六百名の教師生徒全員が一同に会することのできる大体育館の建設を念願しています。とくに同窓会の御協力を心からお願いいたします。

学区の変更や世相の反映で、ここ数年、在校生の姿も随分変化してきました。ごく僅かですが、「皆実の後輩か」と心配かける生徒もいます。校外でそういう生徒を見かけられましたら、なにとぞ一言声をかけてやって下さい。お願いいたします。

「話せばわかる」の語句だけ先行して、話してもわからぬ、そして耐性のない生徒に出会います。なぜ叱られるのかわからない、さらには叱られた経験のない者まで出てきます。まさに無知だから無恥であるという言葉が生きてきます。あらためて、上手な叱り方、どうしても叱らねばならぬことについて考えねばなりません。

1、生命にかかわり、危いとき、引きとめねばなりません。

2、人の心を傷つけたとき、早いうちにその悪の芽をつみとらねばなりません。

3、自分の責任を果さなかったとき、その無責任さを追求せねばなりません。

「勤勉強行責任」を強調し「甘え」をたちきり、真に「自由」を享受できる生徒を育成したいと思います。

多くの生徒たちは、三箇年の間に、やはり皆実のカラーを身につけ、それぞれ希望に応じて巣立っています。御安心下さい。

同窓生の皆さん、お暇をつくって、母校へお立寄り下さい。御健勝と御発展をお祈りいたします。